［図書館］行 政 経 営 計 画 書（ 総 括 表 ）

■事務事業の総括

No.	事務事業名
1	図書館運営事業

令和4年度　事業別行政経営計画書

所属名	図書館	No.	1
事業名	図書館運営事業		

■基礎情報

目的	時代や利用者のニーズを的確に把握して、利用者に対して必要な図書や資料の提供に努め、利用者の増加を図る。積極的に図書館から利用者に新たな本との出会いの場を創出し、図書館サービスの向上を図る。 幼いころから本に身近に触れ、本に親しむ習慣を育み、読書活動の推進に努める。郷土資料を“文化財”として守り、後世に伝える。	
事務内容	・図書館の調査及び統計に関すること ・図書館の広報に関すること ・図書館年報の作成 ・図書資料の貸出・返却に関すること ・レファレンス(参考調査)に関すること ・図書館資料の選書に関すること	・郷土資料の収集・保存等に関すること ・読書活動の推進に関すること ・おはなし会・上映会等のイベント開催に関すること ・図書館資料の分類・整理及び目録作成・保管に関すること
現在における経過又は課題	・図書館システムの機器更新に際し、スマートフォンへの対応など、コロナ禍で一変した利用状況下、利便性の向上と共に新しい生活様式に順応できるようなＩＣＴ技術の利用が求められている。 ・情報通信機器の発達により、子どもだけでなく親世代にも「読書離れ」や「活字離れ」が言われる中、本に触れ合う機会をより多く提供することが、子どもたちの豊かな心と生きる力を育む糧になると考え、読書との出会い・魅力をいかに伝えるかが課題である。 ・開館から４０年が経過し、老朽化と高い書架など障害者差別解消法に対応することが困難な施設となっている。施設の面積には限界があるため、多様化・高度化する住民ニーズに応えることが難しいのが現状である。また、かつての人口増加時代から蔵書数の拡大の方向であったため、図書館自体の空間にかなりの物理的な窮屈感・閉塞感が見られる。新型コロナウイルス感染症の感染防止も考慮し、利用者が安心かつ快適に図書館を利用するための「空間的余裕」が必要となっている。 ・松江市との姉妹都市提携により堀尾吉晴公を始め、大口町の歴史に対する関心が高まっている。郷土を知り、愛着と誇りを持つために、郷土資料を広く住民に提供することが求められている。	

令和４年度の目標又は改善策	・令和４年度に図書館システムの機器更新を予定しており、スマートフォン対応など、利便性の向上が見込まれる。新型コロナウイルス感染症により一変した利用状況下、新しい生活様式に順応できるようＩＣＴ技術を部分的に活用して利用者の満足度の向上を図る。 ・子ども達の教育の基となる「国語力・読解力」向上に資する事業として、ＮＰＯ法人「子どもと文化の森」と協働で子供の読書推進事業を実施する。また、平成２７年から開始した「憩いの四季・図書館まつり」は、事業の見直しをして、町のふれあいまつりと併せて実施することで利用者（大人・子ども）の増加を目指す。 ・図書館の根幹をなす「図書の選書」については、利用者により興味を持ってもらえるように本の売上ランキングや本屋の陳列図書なども参考にしながら、利用者ニーズの把握に努める。

■第７次大口町総合計画に定める事項

総合計画の体系	基本目標	第４章	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する
	基本政策	第１節	生涯学習の推進

成果指標	利用者ニーズにあった図書館サービスの提供 蔵書点数と貸出点数／人口							
	H25 実績値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値
蔵書点数	84,384 点	96,944 点	93,699 点	93,578 点	95,083 点	90,000 点	87,500 点	105,500 点

成果指標	子どもの読書活動の推進 おはなし会・上映会参加者数と児童図書点数							
	H25 実績値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値
参加者数	210 人	374 人	0 人	18 人	126 人	100 人	100 人	500 人
児童図書点数	32,390 点	36,195 点	35,159 点	34,695 点	35,489 点	34,000 点	33,000 点	41,500 点

成果指標	住民・企業・行政の協働による図書館サービスの支援体制の充実 ボランティア登録者数とスポンサー登録数							
	H27 実績値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値
ボランティア登録者数	2 人	0 人	0 人	0 人	0 人	5 人	6 人	20 人
スポンサー数	0 団体	16 団体	15 団体	15 団体	15 団体	16 団体	17 団体	20 団体

成果指標	・図書館サービスの強みを生かし、時代に合った形での情報発信をしていく。 ・町内企業、団体のパンフレットや求人募集の掲示など、郷土の企業の特色や魅力を発信する。

	H25 実績値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値
入館者数	104,212 人	97,839 人	48,008 人	45,863 人	69,662 人	120,000 人	150,000 人	200,000 人
郷土資料点数	2,580 点	3,152 点	3,140 点	3,676 点	3,741 点	3,690 点	3,700 点	3,000 点

■３年間の目標

目標	・利用者の増加 ・図書館事業の参加者の増加

項　目（単位）	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 目標	R6 目標
図書館利用者数	24,749 人	23,161 人	32,724 人	33,000 人	33,000 人

■２年後、３年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R5 年度	新型コロナウイルス感染症による「外出しにくい社会情勢」の中で、「いかに図書館の利用者を増やしてその満足度の向上を図るか」ということに着目して「ＩＣＴ技術の活用」を検討する。 スマートフォン保持者の増加により、平成２９年度にはホームページへのアクセス数が減少したものの、次年度以降のアクセス数は増加を続けていることからも、その必要性は十分認められるため、新たな利用者を得られやすいコンテンツから「電子書籍」の導入を検討し始める。 また、小中学校でギガスクール構想がはじまることに加え、町制６０周年を機に「新・大口町史」が発刊されることから「郷土資料」に着目し、子どもから高齢者まで、幅広い層へ所蔵している郷土資料を提供できるようにするため、デジタル化を思案して「郷土おおぐち」に関する重要郷土資料を保存・活用し未来に残す「郷土資料のアーカイブズ」を検討する。
R6 年度	令和４年度に図書館システムの機器更新を予定しており、スマートフォン対応など、利便性の向上が見込まれる。新型コロナウイルス感染症により一変した利用状況下、新しい生活様式に順応できるようＩＣＴ技術を部分的に活用して利用者の満足度の向上を図る。 かつての人口増加時代から蔵書数の拡大の方向であったため、図書館自体の空間にかなりの物理的な窮屈感・閉塞感が見られる。利用者が安心かつ快適に図書館を利用するためには、混雑を避ける「空間的余裕」がまず必要となることから、積極的な図書資料（資料）の除籍を進めて空間の確保をし、除籍をした資料の一部を電子書籍で賄うことができないか検討する。条件が合うようであれば導入を目指すようにし、物理的資料（書籍）と電子書籍を複合化した形の蔵書管理を目標としていく。

■作業工程（当該年度）

月	作　業　内　容
4	・子どもの読書週間　4月23日（土）～5月12日（木）
6	・課題図書の貸出し開始　6月1日（水）～8月31日（水）
9	・図書館システム機器更新 ・図書館特別館内整理日　下旬
10	・読書週間　10月27日（木）～11月9日（水）
11	・ふれあいまつり参加　11月上旬
12	・第1回図書館協議会開催
1	・特定非営利活動法人「子どもと文化の森」との協働事業
2	・第2回図書館協議会開催

■目標又は改善策に対する取組内容

・図書館システムの機器更新を行い、新しい生活様式に順応できるよう来館しなくてもインターネットを利用した新しいサービスをできるように改善した。
・子どもの読書推進事業では、子ども達の教育の基となる「国語力・読解力」向上に資する事業や小さいころから本に興味をもってもらえる事業を行った。
・利用率が低い10代に興味を持ってもらえるよう、本の選書やリクエスト箱など新たな取組をした。

■評価

・図書館システムの機器更新に伴い、インターネットを利用して予約者へのメール連絡や貸出延長、予約取消など来館しなくてもできる機能を増やし利便性の向上をはかった。また、対面での接触を減らし、子どもたちの自主性を伸ばすためにセルフ貸出機を２台導入した。

・3年ぶりの対面でのふれあいまつりと併せて初めて開催した図書館まつりは名古屋経済大学と協働してペープサートや人形劇を行った。事前予約制で人数制限をしながらの開催だったが多くの親子に絵本の楽しさを伝えることができた。

・令和５年３月４日に子どもの読書推進事業として、絵本でビンゴを開催し、ゲーム感覚でたくさんの本を子どもたちに探してもらい読んでもらうことで本の楽しさや探求心を養い、図書館の面白さを伝えることができた。

・利用率が低い１０代に興味を持ってもらえるよう児童室と学習スペースにリクエスト箱を置きできるだけ要望に応えられるよう本を購入した。また、子どもたち自身が薦める図書館本のコーナーをつくり、他の人にも読んでもらえるように紹介した「おすすめ図書館本の紹介」コーナーの本は常に貸出中の状態で、大変好評だった。